

ベルマーク新聞 2月号

発行 公益財団法人 ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035
 大阪事務所 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 〒530-8211 電話 06-6231-0131 ダイヤルイン 06-6201-8031 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

「やっと自分たちの校舎ができた」

 北海道地震で被災、安平町立早来中学校

新千歳空港から雪道を車で20分ほど走ると安平町に入ります。酪農や競走馬の生産、スケート競技などが盛んな内陸の町です。訪れたのは1月22日。前日はかなりの雪が降ったそうですが、この日はよく晴れていました。町役場から少し行くと、プレハブ作りの2階建ての建物が見えてきました。それが安平町立早来中学校の仮設校舎です。

昨年の北海道胆振東部地震では、震源地の厚真町や隣接する安平・むかわ両町の学校も大きな被害を受けました。中でも早来中は校舎の損壊が大きく、建て替えないといけないことになり、その後の授業は町民センターの会議室をアコーディオンカーテンで仕切って行われていました。3学期になって、ようやく町が建設を進めていた仮設校舎に引っ越すことができ、前週にあった始業式には全道のマスコミが取材に来たそうです。

「前の校舎は床にひびが入り、敷地には地割れが生じて、とても使える状態

はありませんでした」と村田宏文校長。校舎は耐震補強されていたので倒壊は免れましたが、それでも補強の鉄骨が曲がったり、天井からコンクリートがはがれて落ちたりと、すさまじい状況だったそうです。「発生が未明ではなく、もし昼間だったら、生徒に被害が出たかもしれません」。

同校は生徒111人で全4学級。プレハブ校舎には、普通教室4、音楽や理科など特別教室4、それに職員室、保健室など最低限の設備が用意されました。プレハブだけに寒いかと思いきや、しっかり暖房され、意外に温かかったです。「ただのプレハブではなく、断熱材が入った寒冷地仕様になっています」と小笠原伴行教頭。とはいえ、校庭や体育館は、道向かいの早来小学校のものを借りている状態。「昼休みに遊ぶところもなくて……」と村田校長は不憫な思いを口にします。

それでも、そろいのジャージを着た

生徒たちは元気いっぱいに授業を受けていました。写真を撮る際にはじけたポーズを頼むと、照れながらもピースサインを作って笑顔を向けてくれました。1年生の小野功貴くんは「町民センターに比べて、ここはちゃんと校舎、だという感じがする。体育館のない仮設のプレハブだけど、そんなに不便は感じません」と、たくましく答えてくれました。

町では校舎の建て替えを機に、早来中と早来小を一体化して小中一貫の義務教育学校としたい考えだそうです。現在の計画では校舎の完成は2021年7月、開校は22年4月。つまり、今通っている生徒たちは、このプレハブ校舎から巣立っていくことになります。村田校長は「今度の4月に入学する生徒には、せめてプレハブを出てから卒業させてあげたいです」と話していました。



北海道地震へのベルマーク財団からの援助は下の記事をご参照ください。



④はじけたポーズをとってくれた早来中の生徒たち
 ⑤プレハブの仮設校舎
 ⑥被災直後の旧校舎内。図書室では本棚が倒れた

西日本豪雨・北海道地震で51校に援助

 総額1120万円

昨年7月の西日本豪雨と、同9月の北海道胆振東部地震の被害に関連して、ベルマーク財団は51校を対象に総額1120万円相当の設備・教材等の援助を実施いたします。

西日本豪雨では、被害の大きかった岡山・広島・愛媛3県の教育委員会にお願いして実態を調べた結果、43校に援助します。このうち広島は、小学校には各種の支援がきているが中学校が手薄だとのことを受け、対象は中学校に絞っています。また、財団が呼びかけていた西日本豪雨被災校への緊急友愛援助は昨年12月で終了し、30校から53万2647円が寄せられました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

一方、北海道地震は、被害の大きかった震源地周辺の厚真・安平・むかわ3町について、北海道教育庁の協力を

得て状況を調べ、小学校5校、中学校3校の計8校に援助いたします。

支援先の学校は以下のとおりです。

西日本豪雨災害

【岡山県】▼倉敷市 川辺幼稚園 箭田幼稚園 川辺小 箭田小 真備東中 真備中 真備陵南高 ▼総社市 昭和小 神在小 昭和中 総社中 ▼矢掛町 中川小

【広島県】▼広島市 美鈴が丘中 船越中 口田中▼呉市 横路中 天応中 安浦中 倉橋中 吉浦中▼尾道市 吉和中 ▼三次市 塩町中 三和中 ▼江田島市 江田島中 ▼東広島市 高屋中 河内中 ▼福山市 神辺東中 ▼庄原市 口和中

【愛媛県】▼宇和島市 玉津小 立間小 戸島小 喜佐

方小 成妙小 吉田小 吉田中 ▼大洲市 久米小 脇川小 三善小 脇川中 ▼鬼北町 近永小 広見中 ▼西予市 明浜中 ▼上島町 魚島中

北海道胆振地震

【北海道】▼厚真町 厚真中央小 上厚真小 厚真中 ▼安平町 追分小 早来中 追分中 ▼むかわ町 宮戸小 穂別小



ベルマーク便りコンクール

入賞校を訪ねて



2018年度ベルマーク便りコンクールは73校から応募があり、財団職員が審査した結果、優秀賞10校、佳作6校、特別賞5校が決まりました。毎年のように優秀賞に選ばれる「常連校」も多いですが、今回は、初めて賞を取った学校を中心に計7校を訪問、日ごらの活動ぶりをお聞きしました。

中には、活動が岐路にさしかかり、やり方を変えて継続していこうとトライしている学校もありました。また、初めて発行したのにいきなり受賞、というラッキーな学校も。事情は様々ですが、どの学校からも、ベルマークにかける情熱と、その真摯な活動ぶりが伝わってきます。



ベルマーク便りコンクールは、2019年度も実施いたします。詳細は新年度になってから財団HPと新聞紙上でお知らせしますが、応募いただいた学校には、もし受賞しなくても、参加賞として2000円の図書カードをプレゼントするのは例年と同じです。ぜひ、奮ってご応募ください。



優秀賞 札幌市立あいの里東小学校

札幌市のJR学園都市線「あいの里公園」駅から雪の中を歩くこと約5分。札幌市立あいの里東小学校(椛澤裕子校長、児童550人)は登校時間でした。8時15分、玄関のドアが開き、子どもたちが一斉に下駄箱へと殺到します。

そこに「おはよう、ベルマークウィークやってます。マーク持ってきた人は出してねー」と、PTA厚生部ベルマーク班長の高橋宗子さんが声をかけます。子どもがマークの入った袋を出すと、「ありがとー」とハイタッチ。この朝は10人ほどがマークを持ってきてくれました。



高橋さんは昨年、初めてベルマーク班になって、6月に札幌市で開かれたベルマーク運動説明会に参加。この運動がハンディのある学校への支援につながることを知り、自分も頑張ろうと思ったそうです。そこでまず力を入れたのがベルマーク便り。「昨年までは同じひな型でしたが、子どもたちの目にとまるよう工夫しました」と高橋さん。便りのタイトルも「Hello!ベルマーク」に変えました。

2学期の開始時には「ベルマークウィーク」と題した収集強化週間を設定し、協力してくれた子どもの名前を発表。こうしたイベント活動の成果が上がり、今年度の第1回集計では前年より1万点も多い2万4千点が集まりました。さらに2学期の最後の週と3学期の初めの週を「ベルマークウィーク2」と設定。最終的には前回の80人を上回る160人の子どもたちが参加してくれました。子どもたちには、後で感謝状と手作りのしおりをプレゼントします。

インクカートリッジの収集箱が並んでいた廊下の隅は飾り付け、華やかなベルマークコーナーに変身させました。高橋さんの行動力と豊富なアイデアにはとても感心させられます。

優秀賞の賞金のうち1万円は「同じ北海道の学校が大変なときなので」と、胆振東部地震への災害支援金として寄付していただきました。ありがとうございました。



特別賞 入間市立狭山小学校

「特別賞をいただき驚いています」。初応募で特別賞を受賞した埼玉県入間市立狭山小学校(酒本希朱=さけもと・きあけ=校長、児童432人)では、今年度から図書館推進委員会(通称図書ボランティア)がベルマーク活動を担当しています。読み聞かせや児童の図書委員の補助業務などを行う9人ほどのメンバーで、子どもが卒業後も長年続けている人もいます。ベルマークの仕分けは月一回、午前中の3時間。来るのも帰るのも自由で、保育士の仕事の合間に参加する人もいます。「得意ではないけれど、皆でやると集中して出来ます」「お喋りしながら作業するのが楽しい」と和気あいあいと仕分けしています。

狭山小では一昨年までPTA学級委員会がベルマークを担当していましたが、作業が負担になるという声から活動を中止する事になりました。ところが「作業は大変だけど、ベルマーク自体は残したい」という意見も多く、何とか続けられ



ないかと模索した結果、図書館推進委員会が引き受ける事になりました。

「活動休止後、各教室に置いてあった回収箱の中身を試しに集計したところ、9805点もあったんです。まだまだ集めてくれている方がいると分かり、子どもたちのためになるならと、話し合って引き受けることにしました」と代表の菊池千恵子さん。

ベルマークだよりは菊池さんと、同じく10年以上図書ボランティアを続ける山崎香織さんが作っています。「活動を始めたばかりで発行数も少なく、ベルマーク以外のお知らせも載せていたので、コンクールへの応募をためらいましたが、募集要項に『活動への協力を呼びかける内容』とあったので送ってみました。保護者に向けた真摯な呼びかけや、ボランティアで活動を再開した点が評価されました。

ベルマーク預金は図書室に置く本の購入にあてられる予定だそうです。



特別賞 福岡教育大学附属小倉小学校

福岡教育大学附属小倉小学校(服部一啓=はっとり・かずたか=校長、児童417人)が、初めての応募で特別賞に選ばれました。小倉小では、研修委員18人がベルマーク活動を支えています。以前は同好会「ベルちゃんズ」として月一回10人ほどで集まっていましたが、定期的に活動して盛り上げようと学校に提案し、昨年4月から委員会になりました。保護者の連絡用アプリでマーク回収日をお知らせするなど工夫しています。ベルマーク便りは四人一組で作成しています。子どもたちに親しみやすいように手書きでカラフルに、フォントも大きめで見やすくしました。各教室に掲示する際には透明ケースに入れて縁を可愛らしいテープで囲むなど目立つよう工夫しています。

ベルマーク便り第1号を作った橋本舞さんは「シンプルにわかりやすく書きました」。また、第2号を作った三山芳子さんは「誰が何を書くか話し合い、パーツごとに自宅で作成したものを持ち寄って貼り付けました」と、それぞれの工夫を話してくれました。研修委員は「子どもたちにより良い学習を」と、

科学ショーなどのイベントも企画しており、11月には国立研究開発法人防災科学技術研究所の林春男理事長による防災科学教室も実現しました。また10月の文化祭では、協賛会社のスミフルジャパン(ベルマーク番号70)のキャンペーンで当選したバナナでチョコバナナを作り、ベルマークを持参した人にプレゼントしたところ、わずか一日で三千点以上のマークが集まりました。

「ベルちゃんズ」の頃から熱心に取り組んできた研修委員長の牛嶋重美さんは、「受賞を励みに一層頑張っていきたいです」、また船瀬安仁副校長は「研修委員の方たちの頑張りが認められて嬉しい」と、共に受賞を喜びました。



入賞校を訪ねて

ベルマーク便りコンクール

特別賞 草津市立玉川小学校

玉川小では1977年から続くベルマーク運動が昨春、存続の危機に直面しました。PTA業務の効率化が理由でしたが、ベルマークを担当する教養部のメンバーは「作業は大変だけど学校で役立つものを買える運動の火を絶やしていいのか」「どれだけマークが貯まるか、やれるだけのことをしてから決めよう」と、新たな挑戦を始めました。その結果、年3～4万だった点数は今年度、1、2学期だけで6万6千点と大幅にアップしました。

改革の手始めは、クラスごとに回収箱を置き、いつでもマークを入れられるようにしたこと。従来の回収は年2回でしたが、毎月第1金曜を「ベルマークの日」とし、それに合わせてベルマーク便りを発行して収集を呼びかけました。

ベルマーク便りの編集は、学年ごとに5人ほどの教養部メンバーが月替わりで担当しています。楽しく読めるものを目指し、工夫して競い合っています。

仕分け・集計の方法も変えました。全員が集まるのではなく、各学年に任せて1学期分をま



とめるようにしました。企業と点数ごとに封筒を作り、全学年で共有。仕分けるたびに表に枚数と点数を書き込みます。集計がかなり楽になりました。

点数増には、収集の呼びかけを地域に広げたことも寄与しています。公民館や郵便局、銀行など校区内の8カ所に回収箱を設置。「ベルマークを集めています！」と書いたポスターを様々な場所に貼り、自治会の回覧板でもPRしました。回収箱は教養部メンバーが住むマンションの一部にも置いており、「年配の方が入れてくれ、意外に集まる」そうです。地元の立命館大学でも、知り合いの先生を通じて学生たちに協力を求めました。

今年度の目標は当初5万点でした。でも、予想以上の点数アップで、夏以降は「20万点」を掲げ、「県ナンバー1を目指そう」を合言葉に頑張っています。部長の木元奈々さんは「部員のいろんな個性が集まっていい結果につながった。受賞はとてもうれしい」と喜んでいますが、副部長の杉町知佳さんも「賞をきっかけにベルマーク収集をさらにアピールしていきたい」と張り切っています。



特別賞 三島市立北幼稚園

静岡県三島市立北幼稚園（福尾美幸園長、132人）の「ベルマークだより」が特別賞に選ばれました。ベルマーク担当でPTA副会長の立林美之（みゆき）さんが作成しています。

お送りいただいたベルマーク便り6枚や昨年度の活動報告などからは、継続して活動をして下さっている様子が伝わってきました。



お便りの特徴は、皆さんへの感謝の言葉と、活動の内容が誰にでも見えるようにしてあることです。「平成29年度ベルマーク運動報告」には、送付したマークのうち何点がベルマーク、インクカートリッジやテトラパックなのかといった内訳が掲載されています。こんなお買いものをして、その1割の〇〇円がへき地校支援にまわり、また友愛援助にいくら使ったかなど、用途についても詳しく掲載されており、集まったベルマークが適正に使われていることを理解できるようになっています。担当として活動して初

めて知ったことも盛り込み、皆さんの意識が高まることを願いながら作成しているそうです。

廊下に飾ってある50万点の盾(2016年2月に達成)を見て、立林さんは「いつから参加しているのかわからないけど、これだけ積み上げるってすごいですよね」と言います。北幼稚園が参加したのは2003年。同市の児童数は減少傾向にあり、北幼稚園も例外ではありませんが、卒園した児童の保護者や近所の方の力も借りながら、着実に活動しています。

立林さんと共に活動するPTA総務部のメンバーは、PTA会長の鈴木佳乃子さん、井瀧奈美さん、森玲奈さん、高田優子さん、仁藤紘美さん。鈴木さんは、「とても地道な作業で、集計当日だけでなく、下準備から発送までこなすことがいっぱいあるけれど、そんな努力が実り、嬉しく思います」と立林さんを労いました。

福尾園長は、「0.1点単位の小さくて細かいマークを集計して下さることに感謝しております。積み重ねて下さった点数を、子どもたちが実際に使えるものを購入することで還元していきたい」と今後の抱負を語ってくださいました。



佳作 京都市立嵐山東小学校

ベルマーク運動には2007年から加わっていますが、「ベルコン」への参加は初めて。負担軽減や点数増を目指して今年度から始めた試みを広く紹介できれば、との思いで応募しました。

改革はPTAの総務委員会(12人)が進めました。本部役員の松本由希恵さんは「大変といわれる作業をどうにかしたいと知恵を絞りました」と話します。

まず変えたのはマークの回収方法です。従来は、封筒に入れて児童が月1回、学校に提出していましたが、新方式では、壁掛けのウォールポケットを利用。市販品に手を加えて1階廊下に設置し、ベルマーク番号ごとに分けたポケットに入れてもらうようにしました。

各ポケットには協賛商品の写真などをあしらっています。楽しいデザインで、協賛社も見分けやすいと評判です。仕分けの手間が大幅に減りました。

ウォールポケットの上には、購入予定の備品の点数と集まった点数も掲示しています。総務委員らは、「途中経過が目



に見える、子どもも頑張ろうという気持ちになりますよね」と話します。総務委員やボランティアのPTA会員がしていた協賛会社別の仕分け・集計についても、マークの縁カットやテープ留めをやめ、点数ごとに枚数を計算するだけにしました。

テトラパックとインクカートリッジの回収も始めました。地域の回覧板でも呼びかけ、テトラパックは夏場だけで12キロも集まりました。

児童数323人の小所帯だけに点数アップはあの手この手。行事で配るお茶はベルマーク付き「生茶」。夏祭りの景品はウェブベルマークを通じて購入しました。

ベルマーク便りでは、こうした取り組みをわかりやすくお知らせしています。児童も読めるように大きめの字で漢字はふりがな付き。「活動をしっかりPRすることで、みんなのやる気をアップさせよう」というのが総務委員らの思いです。

特別賞 堺市立熊野(ゆや)小学校

初めて編集・発行した「ベルマーク新聞」でいきなりの特別賞。簡潔明瞭な文章と読みやすいレイアウトで1ページに様々な記事を上手に載せている点が評価されました。手書きの柔らかいタッチも



親しみやすさを感じさせます。

編集した昨年度のPTA施設委員長の永田桃子さんは、「見やすく、わかりやすく、かわいらしい紙面を心がけました」。絵や写真を多用して、文字は少なめにしたと言います。

ベルマーク運動の説明会に出席して、ベルマークでの購入費の1割がハンディのある学校の支援に役立てられていることや、ネットショッピングで点数を貯められるウェブベルマークなどを初めて知り、「みんなに伝えたい」と思ったことが新聞創刊につながりました。4年ほど貯めていたベルマーク預金で、ボール類や一輪車など約26万円分の備品を一挙に購入した報告も、目的の一つでした。

児童数300人ほどの学校ですが、毎年4～5万点のマークが集まります。

初めて編集・発行した「ベルマーク新聞」でいきなりの特別賞。簡潔明瞭な文章と読みやすいレイアウトで1ページに様々な記事を上手に載せている点が評価されました。手書きの柔らかいタッチも

親しみやすさを感じさせます。編集した昨年度のPTA施設委員長の永田桃子さんは、「見やすく、わかりやすく、かわいらしい紙面を心がけました」。絵や写真を多用して、文字は少なめにしたと言います。ベルマーク運動の説明会に出席して、ベルマークでの購入費の1割がハンディのある学校の支援に役立てられていることや、ネットショッピングで点数を貯められるウェブベルマークなどを初めて知り、「みんなに伝えたい」と思ったことが新聞創刊につながりました。4年ほど貯めていたベルマーク預金で、ボール類や一輪車など約26万円分の備品を一挙に購入した報告も、目的の一つでした。児童数300人ほどの学校ですが、毎年4～5万点のマークが集まります。

明治5(1872)年創立の伝統校だけに、学校を支えようという地域の思いはとりわけ強く、地元のスーパーに置いた収集箱は2～3カ月で満杯になります。総点数の半分は、こうして地域から寄せられた分です。

いま力を入れているのはウェブベルマークのPRです。新聞でも、全国2391校中329位というウェブベルマークでの熊野小のランキングを載せ、「めざせ！関西ベスト10」と宣言しました。今年度の施設委員長の喜多行美さんは、協賛会社の負担で東北の被災校に1円が寄付できるウェブベルマークのワンクリック募金をとりあげ、「そういう社会貢献活動も伝えていけたらいいな」と言います。

PTA会長の松原唯夫さんは「施設委員のみなさんには熱心に取り組んでいただき、ありがたく思っています。地域の人たちの協力にも感謝しながら、引き続き頑張っていきたい」と話しています。



「いいねー！」合言葉に議論重ねた4日間

福島の中学生招き「九州サミット in みなまた」



㊤不知火火をバックにみんなで記念撮影
㊦真剣なまなざし
㊧クリスマスに頑張る中学生のためにくまモンがサプライズで登場

「中学生九州サミット in みなまた ~我が地域に勇気の一步を!~」が、熊本県芦北町の「あしきた青少年の家」で12月22日から25日に開催されました。熊本県・水俣市・福島県・福島市・郡山市・伊達市・国見町の各教育委員会が後援しました。

始まりは、東日本大震災で風評被害を受けた福島県に対し、水俣病で同様の経験をした水俣市PTA関係者が提案して、双方の中学生同士が復興や地域貢献について話し合う機会を設けたことでした。その後、有志で構成される福島・水俣教育交流実行委員会（委員長・中村慶

治さん）が主催し「中学生九州サミット」となりました。ベルマーク財団もこの活動を支援しています。福島、水俣、佐賀から計50人の中学生が参加しました。

専門家や経験者らの「講話」を聴き、それをもとに話し合う「熟議」が繰り返される形で進行し、そのテーマは多岐にわたりました。

福島第一原発に足を運んだ天野良文さんは、写真を見せて「水俣病はうつりますか？放射線はうつりますか？」と問いかけ、「無知」が風評や差別につながることを訴えました。

水俣病の語り部である杉本肇さんは、

家族が発病し、“奇病”と言われていた時期に“患者のウチ（家）”とレッテルを貼られた経験を伝え、それでも希望を捨てないことの大切さを語りました。

「熟議」では、班ごとに意見をまとめます。意見を聞いたあとは、合言葉「いいねー！」を使って元気づけ反応することで場の雰囲気を盛り上げました。

水俣第二中学校2年の濱田佳子さんは「講話を聞いたら、私たちにも出来ることがある、それを実行していくことが大切だと分かりました。」と語り、今後の抱負として「生徒会でいろんな意見を出していきたいです」と話しました。

実行委員長の中村さんは、挨拶で「正しい情報を発信、と言葉で言うのは簡単。でも自分の目や耳で確認する作業を怠ると、風評を生み新たな被害者をつくりまします。水俣病も原発事故もそれが原因で、人々が傷つき、未だにその傷は癒えません」と話しました。中村さんは保護者としてPTA活動をしている際に両者の共通点を見出し、故郷に誇りを持つことの大切さを伝えたいと思って、交流の実現に尽力してきました。

サミットを支えた大人たちの思いはしっかりと生徒の心に届いたことでしょう。

浜松市の老人ホームでマークの仕分け会

あいおいニッセイ同和損保が市内24図書館で収集

浜松市の老人ホーム「浜名湖エデンの園」で12月18日、ベルマークの仕分け会が開かれました。協賛会社のあいおいニッセイ同和損保（ベルマーク番号92）が、市内の全24図書館に収集箱を設置して集めたマークです。

同社は2017年暮れに浜松市と包括連携協定を結び、その一環として昨年1月からベルマーク収集を始めました。同3月には社会福祉法人聖隷福祉事業団の協力を得て「浜名湖エデンの園」で仕分け作業をし、6月には市内の障害児・者施設にマーク2万余点を寄贈して

います。

2回目となるこの日の仕分け会には入所者10人に加え、園長の宮原成信さんと園スタッフ、あいおいニッセイ同和損保の内田勝司浜松第一支社長、喜多村誠之浜松支店担当課長ら計18人が参加しました。「コツをつかむと楽しい」「慣れればスピードがあがる」などと会話しながら、みな一生懸命手を動かしました。宮原園長は締めあいさつで「本日は大変有意義な時間を過ごせました」と述べました。今後さらに集計を進め、最終的にマークは市内の団体に寄贈される予定です。



みんなで仕分け作業

地域の協力呼びかけマーク寄贈

鳥取県朝日会、米子市の小学校に

朝日新聞の販売所でつくる鳥取県朝日会がベルマーク1万8924点を米子市立就將小学校（児童数約350人）に寄贈しました。新聞購読者らに呼びかけて約2年がかりで集め、集計も販売所長らが手がけました。

朝日会と朝日新聞鳥取総局が中心になって進める教育支援プロジェクト「鳥取子どもみらい応援団」の一環。同校が長年ベルマーク運動に積極的に取り組んでいることから寄贈先を選びました。小椋和彦会長とASA米子中央の田中英雄店長らが学校を訪れ、上村一也校長に手

渡しました。

創立110周年を迎える同校は校舎改修工事の真っ最中。上村校長は「備品類を買い換える必要がある中、自由に使えるベルマークの寄贈はありがたい。学校だよりなどで紹介し、学校のベルマーク運動をより活発にしたい」と話しています。

鳥取県朝日会は売上金の一部を福祉施設に寄付したり、子育て講演会を開催したり、様々な教育支援活動に取り組んでいます。



上村一也校長（左）にマークを手渡す鳥取県朝日会の小椋和彦会長

5年間で100万点積み上げ

800万点 大阪・堺市立金岡小学校

大阪府堺市北区の市立金岡小学校（中里昭宏校長、児童数約1100人）が1961年から集めてきたベルマークの累計点数が、昨年11月に800万を突破しました。5年間で100万点を積み上げました。

PTAでベルマークを担当しているのは、各学年1人の学年代表と全31クラスの学級代表で構成する学年委員会。本部役員の泉池まゆみさんが取りまとめ役です。

マークは年4回、児童が学校に持ち寄ります。1、2年生は授業開始まで、PTAの学年委メンバーのサポートを受けながら自分らで協賛会社別に分けまします。3年生以上はクラスの回収箱に入れます。それを学年委メンバーが回収し、その日のうちに学校で仕分けまします。点数計算は担当企業を決め、それぞれの自宅ましています。

回収箱は公民館やスーパー、保育所など校外の18カ所にも置ましています。テトラパックは地域の協力で回収量が年々アップ。10キロ詰めめ段ボールを年に20～30箱も発送できるようになりました、PTAの行事で配るお茶はベルマーク付きの「生茶」を選び、その場でマ

ークを回収するなど、細かい努力も重ねましています。

昨年度の集票点数は約16万3千。府内3位、全国でも73位でした。市内屈指の大規模校という事情もありますが、「地域を含め、『子どもたちのためにベルマークを集めて役立てよう』という意識と関心の高さを実感まします」と泉池さんまいます。

今年度は日本テトラパックの「『アルミ付き紙パック回収チャレンジ』キャンペーン」で「継続は力だ賞」に輝ましました。賞品は紙パックをリサイクルしたボックスティッシュで、全校児童に5箱ずつ配りましました。「回収作業は楽ではないけれど、『やってて良かった』とみんなだ喜び合ましました」

働くお母さんが増える中、ベルマーク運動の担い手の負担をさらに減らましていかなば、とも感じてまいます。「ベルマークはとても意味のある取り組みだまと思います。続けていくためにも、みんなが無理せず楽しくできるよように工夫ましていきたいだすね」



PTA本部役員の泉池まゆみさん（前右列端）と学年委員会のみなさん

「集めるのがあたり前」

700万点 宮崎・小林市立小林小

九州山地と霧島連山に囲まされた宮崎県小林市の市立小林小学校（児童数607人）の累計ベルマーク点数が昨年10月、同県で初めて700万点を超えましました。1961年から運動に加わり、児童とPTAのベルマーク委員会の連携プレーで県内屈指の実績をあげ続けてまいます。

1872（明治5）年創立の伝統校。校長室前の廊下には学校の歩みを記した大きな掲示板があり、ベルマークに関しても細かく書かれてまいます。昭和58年「ベルマーク運動第1位の表彰」▽平成7年「ベルマーク400万点達成 大型テレビ（42型）購入」▽12年「ベルマーク500万点達成。全国表彰」……。小林小のみなさんのベルマーク愛の深さをひしひしと感ましました。

マークの回収は、5～6年生の各クラス3～4人の児童計約20人でつくるベルマーク委員会が担まっています。月1～2回活動し、持ち寄ったマークを仕分けましています。一方、PTAのベルマーク委員会は全学年のクラスごとに2～3人いて計43人。偶数と奇数の学年に分け、年に3回ずつ活動ましています。児童のベルマーク委員

会がやり残したマークや、地元のファミリーマートが集めてくれるマークを仕分け・集計。事務用品店から寄せられるインクカートリッジも整理ましています。

ベルマーク預金で今年度は運動会用のテントを買ましました。環境教育という観点から全クラス分のごみ分別ボックスを購入したり、東日本大震災ではマークを被災地の学校に寄贈したりもしてまきました。

委員長の斉藤寿代さんは「代々この学校に通う家庭が多く、ベルマーク集めはあたり前になってまいる感じ。よく協力してくれてまいます」。副委員長の水間真由美さんは神奈川県の実家の父母にもマークを集めてもらまっています。700万点超えについては、2人とも「これまでの在校生やPTAのみなさんの努力の賜物。今後も積み重ねて行けたらいいな」と言まいます。本部礼次郎校長も「PTAの方々の頑張りには頭が下がります。ベルマークに込められた家庭や地域のみなさんの思いを子どもたちにしっかりと伝え、感謝の気持ちを持てるよようにしたい」と話ましています。



PTAベルマーク委員会のみなさん

学校のあゆみを紹介する大きな掲示板には、ベルマークに関する記述も目立ちまます。

東芝ライフスタイルの「アルカリ1」 「LED懐中電灯」がさらに進化

協賛会社の東芝ライフスタイル（ベルマーク番号43）の商品、「アルカリ1」と「LED懐中電灯」がさらに進化ましました。

乾電池「アルカリ1」は使用推奨期限が10年になり、本体とパッケージのデザインも新しくなりました。買い置きに、防災などに安心だす。

「LED懐中電灯」は従来品と比較して、明るさが約60%アップして再登場だす。連続使用時間も長くなり、雨の中でも使える防水仕様になってまいます。レジャーや非常時の強い味方だす。

いずれの商品にもベルマークがつまっています。ぜひお買い求めください。

【アルカリ1】

単1形（4～7点） 単2形（4～6点） 単3形（3～18点） 単4形（3～10点）



【LED懐中電灯】

KF L - 12N (W)、KF L - 22N (W)、KF L - 32N (W)（各9点）



◎第一生命寄贈

毎年ベルマークを寄贈してくれてまいる第一生命保険団体年金サービス部（東京都江東区）が、今年も1月31日にベルマーク財団を訪れ、マーク4300点余を財団職員に手渡ましました。

内訳は、切り取ったマークが3819.2点、インクカートリッジが570点。今年度はマークを協賛会社・点数ごとに仕分け・集計した上で持ってきてまいただきました。仕分けた協賛会社は34社分でした。

同部は3年前から社会貢献の一環としてベルマークを始めてまいます。企業年金の制度管理業務を担当してまいる企業年金ビジネスサービス株式会社（東京都品川区）とともにマークを収集してまいます。今後も引き続きベルマーク活動に取り組んでまいただけるとのこと。ありがとうございました。大切に使用まさせていただきます。



大台達成校

1月 大砂土東小

さいたま市見沼区	9,068,466
武蔵野小 川越市	6,010,258
新庄小 富山市	6,019,943
長等小 大津市	6,001,814
松陽小 白山市	5,005,444
清和小 鹿児島市	4,008,160
鶴丸高 鹿児島市	4,064,344
成器南小 勝山市	3,032,183
幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園 静岡市葵区	3,015,460
沢池小 明石市	3,012,090
桔梗野小 弘前市	2,000,494
小鮎小 厚木市	2,001,242
意岐部小 東大阪市	2,011,039
平野中 神戸市西区	2,012,572
松島小 福岡市東区	2,013,908
南立石小 別府市	2,006,958
高階北小 川越市	1,023,793
春野小 さいたま市見沼区	1,008,929
原小 印西市	1,025,733
斧小 港区	1,001,182
茅ヶ崎東小 横浜市都筑区	1,028,868
高司小 宝塚市	1,003,461
真備中 倉敷市	1,079,093
高屋中 東広島市	1,005,261
森山東小 諫早市	1,004,288

読んでみたい本 児童文学評論家・藤田のぼる

昨年の大晦日、新聞によっては元日付けに載っていましたが、作家の宮川ひろさんが亡くなりました。産休補助の先生と子どもたちの交流を描いた『るすばん先生』で1969年デビュー、この時宮川さんは46歳でした。そこからちょうど50年、『先生のつうしんぼ』『天使のいる教室』など、多くの作品を通じて、子どもたちや子どもと関わる大人たちを優しく励ましてきました。聞けば、これから本になる原稿があるというくらい、現役作家でした。ご冥福をお祈りします。

絵本

『そのうえのそいでんせん』
(鎌田歩・作、アリス館)

高い鉄塔と鉄塔をつなぐ送電線。この補修点検の仕事をしている人たちは、ラインマンと呼ばれます。高さ50メートルの世界で、どんなふうにして仕事をするのか。絵本の画面を文字通り縦横に使いながら、その仕事ぶりや、ラインマンから見える光景が描かれます。この絵本を見た後では、送電線を見上げた時の気持ちがガラッと変わるでしょう。(低・中学年以上向き、1400円+税)



『だいたいだいすき』
(石津ちひろ・文、たかくわこうじ・絵、ハッピーオウル社)

僕は専門学校で絵本作りの授業の最初の時間に、学生に「折句」での自己紹介をしてもらいます。〈ふるい人間と〉〈ジかくはしてまます〉〈タのしくやりましよう〉という具合です。この絵本は、カバの親子の日常の風景についている文が、すべて動物の折句



になっています。〈くるくるまわる〉〈まのまわりを〉という具合に。そしてその動物がページのどこかに隠れているという仕掛け。この絵本を読んだ後、子どもと一緒にぜひ折句を楽しんでください。(低学年から、1300円+税)

『だいじょうぶじゃない』
(松田もとこ・作、狩野富貴子・絵、ポプラ社)

〈ぼく〉のおばあちゃんは、山の中の家で一人暮らし。夏休みに遊びに行くと、まわりの畑でとれた野菜がとてもおいしいのです。ところが、さるたちがその野菜を狙ってやってくるのです。畑に入り込もうとするさるたちを、おばあちゃんがゴム鉄砲で追い払いますが、さるたちも負けてはいません。夜に屋根の上で騒いだり、食べかけをまき散らしたり。お父さんが迎えに来た日、「だいじょうぶだから」というおばあちゃんに、「だいじょうぶじゃない」と叫ぶ〈ぼく〉。絵本のタイトルになっているこの言葉は、子どもたちの心にさまざまな波紋を投げかけてくれるでしょう。(低学年向き、1400円+税)



低・中学年向け
『二年二組のたからぼこ』
(山本悦子・作、佐藤真紀子・絵、童心社)

二年二組にある「たからぼこ」は、たから君の落とし物を入れるための箱。それくらいたから君は落とし物が多いのです。隣の席になったみなは、たから君に物を貸すのが嫌になってきます。悪いのはたから君なのに、全然平気そうなのです。二人が日直の時、大



事な鍵がなくなり、みんなたから君のせいだと言いはじめますが、実はみなのほうが心当たりがありました。教室に漂う「当たり前」をものともしない、たから君のキャラクターが魅力的です。(低・中学年向き、1000円+税)

『がんばれ給食委員長』
(中松まるは・作、石山さやか・絵、あかね書房)

ゆうなの学校は5年生から委員会活動があり、なんとなく給食委員になったゆうな。初めての給食委員会で、くじで給食委員長を引き受けるはめに。若い栄養士の藤代先生が、食べ残しの多いことに悩んでいるらしいことを知り、給食委員会で子どもたちの好きなメニューを出し合ったりするのですが、学校給食がいかさままな制約の中で作られているかを知っていきます。冒頭の『先生のつうしんぼ』を始め、給食のことはよく題材になるのですが、これほど本格的に学校給食をめぐる制度的な背景が語られた作品は初めてでした。さて、優菜たちが試行錯誤の末にたどり着いた方策は？ 5年生中心の物語ですが、4年生くらいから充分興味深く読まれるでしょう。(中・高学年向き、1200円+税)



高学年・中学生向け
『むこう岸』(安田夏菜・作、講談社)

医者の子で難関中学への入学を果たした山之内和真。母子家庭でその母も病弱なため生活保護を受け、家事や妹の世話まで負担している佐野樹希。本来接点のないはずの二人でし



たが、勉強についていけなくなった和真が、樹希のいる公立中学3年生のクラスに転校してきたのが始まりでした。有名中学からの転校であることをひた隠しにする和真でしたが、偶然樹希がそれを知り、口止めとして出した条件が、同じような境遇で父親が黒人のアベルに、勉強を教えることでした。ここから、和真はまったく知らなかった世界に足を踏み入れ、生活保護をめぐる不条理に目が向けられていきます。このように書くと、いささか図式的な構図という印象を受けるかもしれませんが、そうした図式を越えて、というか図式であることを恐れずに、もがき苦しむ中学生たちの姿が、そのまわりの大人たちの姿が、あぶりだされていきます。その手応えは、まさにハンパではありませんでした。(高学年・中学生以上向き、1400円+税)

『クロードッグ』
(今西乃子・作、金の星社)

学校の帰り、航が原っぱの段ボール箱の中に見つけたのは、両方の後ろ足が切られた子犬でした。獣医師である父親に診てもらい、その子犬を飼うことに。長く親しんできた愛犬が、前の年に亡くなっていたのです。希(のぞみ)と名づけたこの犬を世話する中で、航の心も成長していきます。希との絆が深まるにつれ、一方で遠くない将来の希との別れが心配になっていく航が、ネットで偶然目にしたのは、「ペットのクローンを誕生させます」というサイトでした。『犬たちをおくる日』などのノンフィクションで知られる著者が、人間とペットとの関りについて読者に問いかけます。(高学年以上向き、1300円+税)



ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈震災寄贈〉12月21日～1月20日
▼宮城県 匿名希望▼秋田県 大正琴あきた▼福島県 高野裕美▼群馬県 小倉クラッチ(株)品質環境推進課スィーツクル▼埼玉県 ふじみ野市立さぎの森小学校 山吹保育園 (株)エココリサービス 松山女子高等学校ソーシャル・サポート部▼千葉県 池田文江 関田元子▼東京都 伊藤美香 杉山清子 住電商事(株) 調布市職員共済会ボランティアクラブ 加藤みか 清水久美子 ジャパンパイル(株)東京支店 諏訪しおり パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)J-MOT 首都圏 吉田みどり JYJへの愛をささやく 岩瀬弘 コープみらい東京本部東京6ブロック委員会 温品心晴▼神奈川県 (株)野村総合研究所 門田彩 ASA二俣川 東芝インフラシステムズ(株)小向事業所 林美奈子 丸田淳子▼新潟県 新潟のサタケコース 岡田悦子▼岐阜県 猪飼真由美 服部尚子▼愛知県 川角淳子 田中利江 日本年金機構鶴舞年金事務所 宮木このみ 岩村美貴▼滋賀県 ローズキャッツ▼京都府 野口美幸▼大阪府 川村早苗 中野一湖 山本真輝▼兵庫県 (株)フェリシモ たつのひめじ金澤体操教室参加者一同▼和歌山県 父川順子▼岡山県 ノートルダム清心学園清心中学校生徒会▼広島県 松尾真希▼山口県 匿名希望▼愛媛県 愛媛大学生協学生委員会▼福岡県 安楽くるみ 重松さおり 藤まさみ 升本延香▼長崎県 大村高等学校▼鹿児島県 福吉文▼アマ

ノ 松井恵▼無記名=32件
〈一般寄贈〉12月21日～1月20日
▼北海道 山上ひとみ 加藤良一 佐藤玲 手戸理佳 NPO法人幹の会 長谷正枝▼岩手県 むらさきのクリニック職員一同▼宮城県 阿部好江 貝塚友香 野崎博子▼秋田県 石田シゲ子 伊藤ひろみ 鈴木薫▼茨城県 石塚英和 石塚順子 シティーナ神立▼栃木県 石川志典▼群馬県 須田節子▼埼玉県 ASA 小手指狭山ヶ丘 明治安田生命保険(相)所沢支社 青木宏之 菅野恵天 武内亮介 田島淑江 市川和代 馬場ひろ子 藪陽一▼千葉県 花嶋純代 鈴木美和 長田亮平 宮澤恭子 伊藤昭一▼東京都 KDDI(株) 井上一郎 宇野拓海 葛西美沙子 塩野公認会計士事務所 自由学園 達川佑香 針井陽子 堀内きよ 三橋良江 山崎優子 市川佳世子 井上一郎 岩本三礼子(株)グリーンハウス 川下英子 河野 北野陽子 木村才子 榊原陽子 ジブラルタ生命保険(株)自衛隊推進チーム ジャパンパイル(株)東京支店 杉原泰雄・祐子 鶴山英一 東京海上ビジネスサポート(株) 野口晴代 松延佳代 三菱UFJニコス(株) 武蔵野ばあば (株)東芝営業統括部一同 佐藤和恵 星野一樹 武蔵野館▼神奈川県 主婦 城田千秋 松本由美 矢嶋紀子 横浜建設一般労働組合 四ツ橋准子 中山絵里 富士ソフト企画(株) 横浜オフィス 石黒琢一郎 後藤朝子 鈴木英一 東芝プラントシステム(株) 理部・IFRS・J-SOX 対応推進部▼新潟県 井越幸子 古川みゆき 地域密着型複合施設わしま▼富山県 松井和子▼石川県 宮森まち子・要▼長野県 伊藤伸子 千葉家一同▼岐阜県 西田 匿名希望▼静岡県 全矢崎化工労働組合 岡本 名取 わらべ絵館喜田川昌之 匿名希望▼愛知県 奥井久恵 日本年金機構鶴舞年金事務所 吉村千鶴 新海のぞみ 土屋友子 戸川文字 梶原和美 (株)名鑑 阪堂淳子▼三重県 アイスター商事代理店・川口節子 山森房子▼京都府 河崎太吾 中村ゆかり (株)時代工房 (株)スタジオニクロム▼大阪府 (株)関電エネルギーソリューション有志 溝口しげみ 青木なおみ 加藤紀子 谷野恵子 ブルガリイルカ フェスタフー一同 安永恒子 大和ハウス工業(株)CS推進部・関西地区お客さまセンター 上場慶一 明治安田生命保険(相)事務サポート 大阪事務サービスセンター▼兵庫県 福田登三枝 加藤産業(株) しみずみわ▼鳥取県 永原千恵▼島根県 永窪秀臣▼広島県 天野祐子 広島安田女子大学家政学部生活デザイン学科1年一同 呉健康サポートネットワーク▼山口県 山中靖正 大船一宝 匿名希望▼徳島県 アイスター商事代理店・神原ひろ子▼愛媛県 東芝ライテック(株)今治事業所▼高知県 麻生美奈穂 (株)高知銀行▼福岡県 石橋由紀子▼長崎県 齋藤公比呂▼大分県 石堂泰史 嶋崎光平▼無記名=38件

〈友愛援助申し込み〉1月1日～1月30日
▼宮城県 高清水中(栗東市)▼福島県 県立須賀川支援学校医大校(福島市) 福島県立須賀川支援学校医大校(福島市) 福島西高(福島市)▼茨城県 常陸太田市子どもセンター(常陸太田市) 岡田小(牛久市)▼埼玉県 青木北小(川口市) 潮止小(八潮市) 栄和小(さいたま市桜区) 潮止小(八潮市)▼千葉県 千葉大学教育学部附属小(千葉市稲毛区)▼東京都 南第四小(町田市) 東大和市立第四小(東大和市) 富士見丘中(杉並区)▼神奈川県 山元小(横浜市南区) 子安小(横浜市神奈川区) 田名中(相模原市中央区) 清泉女学院中学高(鎌倉市)▼富山県 若葉幼稚園(富山市) 定塚小(高岡市) 定塚小(高岡市)▼長野県 吉田小(塩尻市)▼静岡県 中野学園オイスカ高(浜松市西区)▼愛知県 緑丘小(みよし市) 汐路中(名古屋瑞穂区) 名古屋柳城短期大学附属豊田幼稚園(豊田市)▼滋賀県 瀬田中(大津市)▼京都府 京都女子中(京都市東山区)▼大阪府 樟葉西中(枚方市) 山田中(吹田市)▼島根県 蔵木中(吉賀町)▼広島県 大塚小(広島市安佐南区) ノートルダム清心中・高(広島市西区) 美鈴が丘高(広島市佐伯区)▼徳島県 八万中(徳島市)▼香川県 大野小(高松市)▼長崎県 大野木場小(南島原市)▼鹿児島県 青戸中(南九州市)